

よつば通信



令和4年5月20日
魚津市立よつば小学校
5月号

URL www.yotsuba-e.tym.ed.jp

ふるさととキャリア教育の充実

～ふるさと(地区)を学びの場に～

校長 水橋 渉

私が本校に赴任して2年間は、新型コロナウイルスの感染拡大により、子供たちの生活は制限され、教育活動も内容を縮小し、方法を見直すなどして、工夫・改善を図りながら取り組んできました。学校は、長い期間、外部の人たちを学校に入れず、堅く閉ざさざるを得ませんでした。そのため地区と学校は分断され、学校は校区の中で孤立しました。人と触れ合う機会が少なくなることにより、子供たちの情意面での成長、豊かな心の育成が危惧されています。

私は常々、よつぱっ子が、ふるさとに誇りと愛着をもつ子供に育ってほしいと願っています。それは、ふるさととは、人にとって生きていく上で 生涯の心の基盤、支えであり、どんな苦しいことでも、ふるさとが心の中にあるれば、乗り越えていくことができると考えるからです。ふるさとの思い出、特に、小学生の時のふるさとに関わる活動と学び(知識、技能、情意等)は、人格形成に多大な影響を与えます。ふるさとに誇りと愛着をもつためには、自分の生活基盤である地区の特徴的な事象に関わる人々と出会い、直接話を聞いたり、共に活動したりすることが大切です。地区に生きる人々が、どんな思いで、どんな取組をしているのかを知ることにより、人の温もりや地区に対する思いに触れ、自分の地区に対する見方・考え方が深まり、地区のよさを実感することができます。そのよさの気づきが、自分も地区の一員だという自覚へ、そして、自分も地区をよくする、守る、つくるための他律的ではない自律的な学びにつながります。そのことが、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成する力、即ち、さらによりよいふるさとを創ろうとする力や今後の自分の成長のために進んで学ぼうとする力を高めることにつながります。

今こそ、孤立化した学校を解き放ち、よつぱっ子を地区に返すときです。よつぱっ子が地区で学ぶ絶好の機会です。そのためにも、地域と学校、家庭が力を合わせ、よつぱっ子によりよい学びを提供しなければなりません。学校では、地区でどんな活動ができるのか、どんな人と触れ合うことができるのか、計画を立てています。今年度は、計画を立てながら活動することが考えられます。今後、よつぱっ子が地区に飛び出したときは、温かく見守っていただき、共に活動していただくなど、ご理解とご協力をお願いします。

～ 朝の風景から ～

新年度当初、校長室に6年担任を招き入れ、お願いしていることがあります。「世の中に6年生は数多くいる。よつぱの6年生を最上級生に育ててほしい。6年生一人一人が最上級な態度、最上級な考え、最上級な心を目指すことで、下級生に憧れられる最上級生になる。」と。

ある日、6年生の教室で左下のような朝の黒板メッセージを、そして、ある朝スクールバスの乗降場で右下のような最上級な態度を見付けました。

【朝の黒板メッセージ】

おはようございます。☺ 昨日は、市体、本当によくがんばりました。🌟

本気で走りきる姿が、輝きであふれていて、真剣で、熱くて最上級ながんばりだったと思います。やりきった達成感、うれしさ、心からのくやしさ、いろいろな感情が、あると思います。感情が動くということは、本気で全力でやりきった証です。行事に取り組む中で、いろいろなことを考え、感じてきたことでしょう。その経験一つ一つが人生の宝物ですよ。(後略)

【最上級な態度】

スクールバスを利用しているMさん。必ず最後に少し遅れて降りてきます。

下級生が取り外し、乱れたシートベルトをきれいに折りたたんでいるのです。誰かに頼まれた訳でもないのですが、6年生として、自分がすべきことをする。この自発的な態度に最上級生としての自覚とプライドを感じます。Mさん、必ず、やりきるんだよ。

やっぱり、よつぱっ子って、いいなあ。